

■数寄屋丸二階御広間及び南大手門の概要

名称	構造形式	建築面積	延床面積	履歴
数寄屋丸二階御広間	木造檜入母屋造・本瓦葺	498.84㎡	821.88㎡	平成元年（1989）復元
南大手門	木造櫓門・本瓦葺	303.11㎡	330.16㎡	平成14年（2002）復元

■被災状況（石垣の被害）について

【数寄屋丸二階御広間】

- ・南面石垣：建物直下一部崩落・石垣上部の大部分が変状
- ・北面石垣：上部の大部分が変状
- ・上記隣接石垣：石垣上部の大部分が変状

【南大手門】

- ・建物直下の一部（東面、南面、西面）の石垣が崩落、その他の個所においても石垣が変状

■櫓台石垣の修理

石垣は解体修理が必要

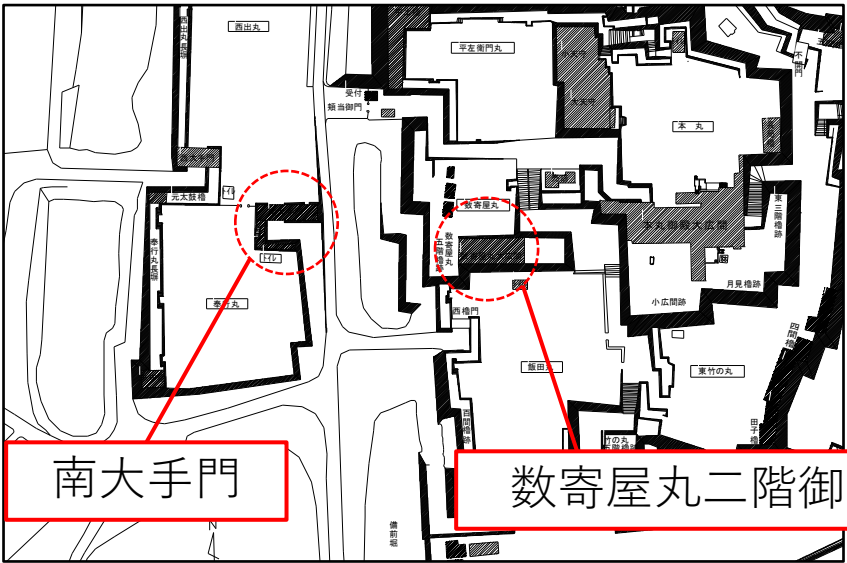
⇒令和6年度以降、解体範囲等審議予定

■建物の状況（外部）

石垣の沈下等により土台が大きく変形
そのため数寄屋丸二階御広間、南大手門については解体保存を行う。
⇒令和4年度より解体設計に着手予定

■建物の状況（内部）

現在の状況（目視、柱の傾斜、床の不陸）を報告





1 廊下西側 床傾斜、柱梁の歪み、壁剥がれ



2 廊下西側 床傾斜、柱梁の歪み



3 廊下中央付近 床傾斜、柱梁の歪み、壁剥がれ



4 廊下中央付近 建具歪み、床傾斜



5 廊下東側 柱が南側方法（石垣側）へ抜け出ている



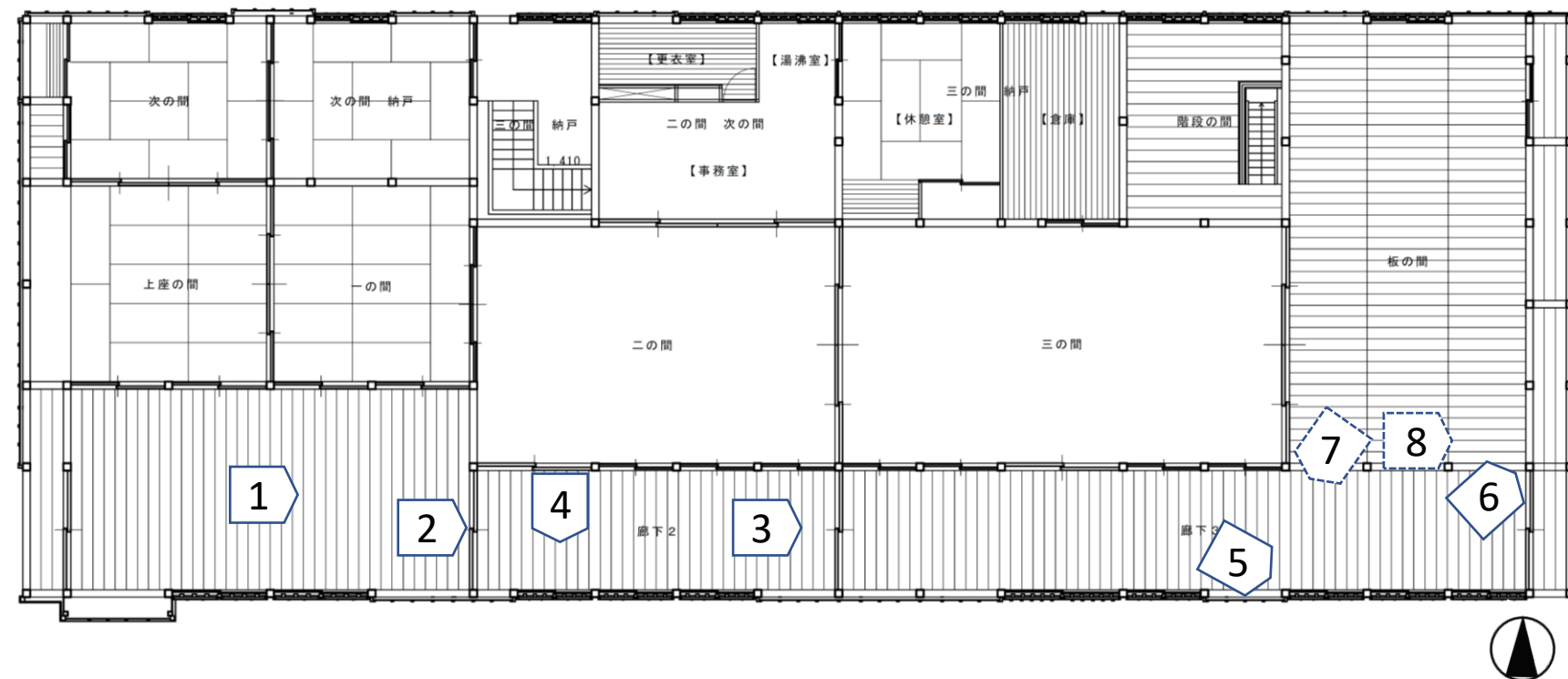
6 廊下東側 柱が南側方向（石垣側）へ抜け出ている



7 廊下下部 石垣側の柱束が抜け、倒れている

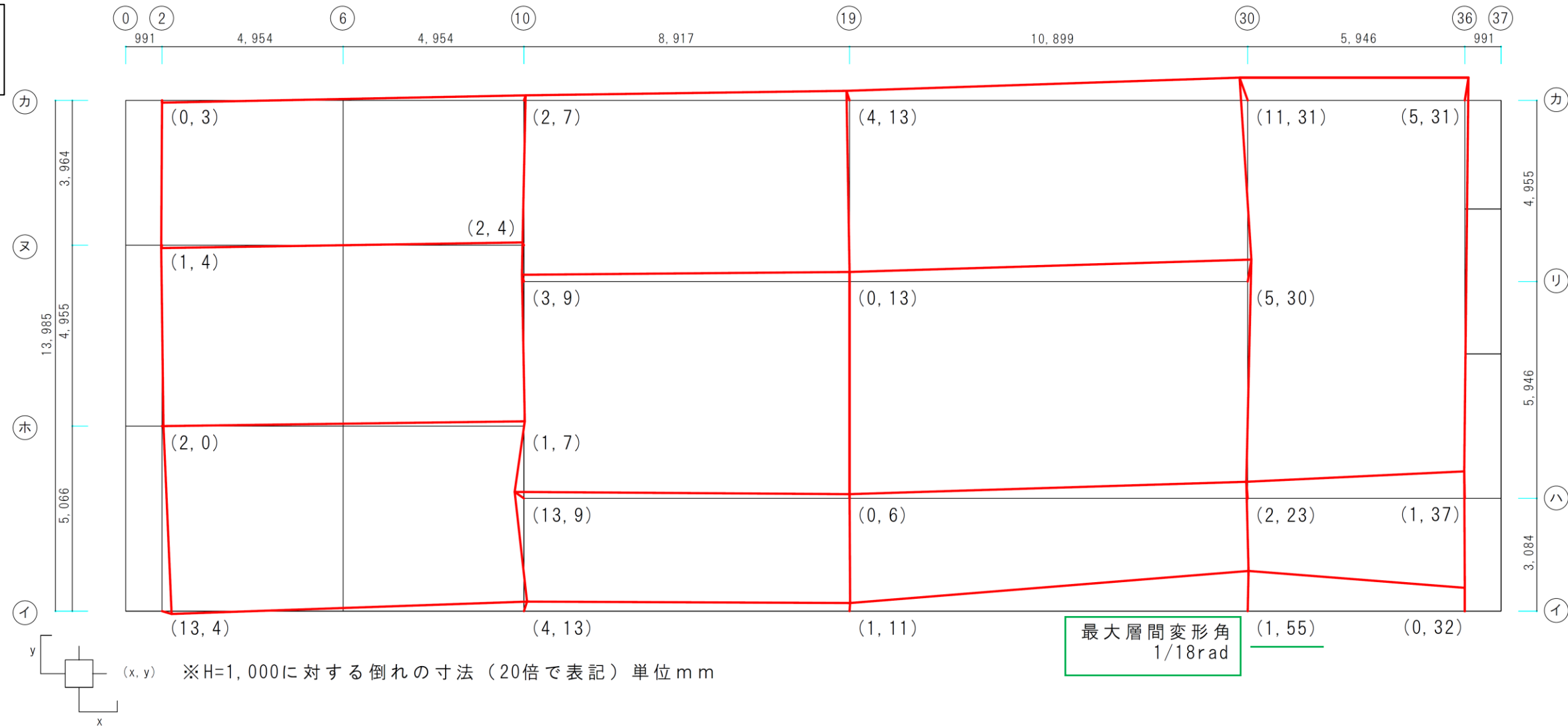
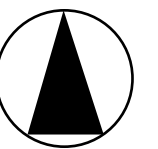
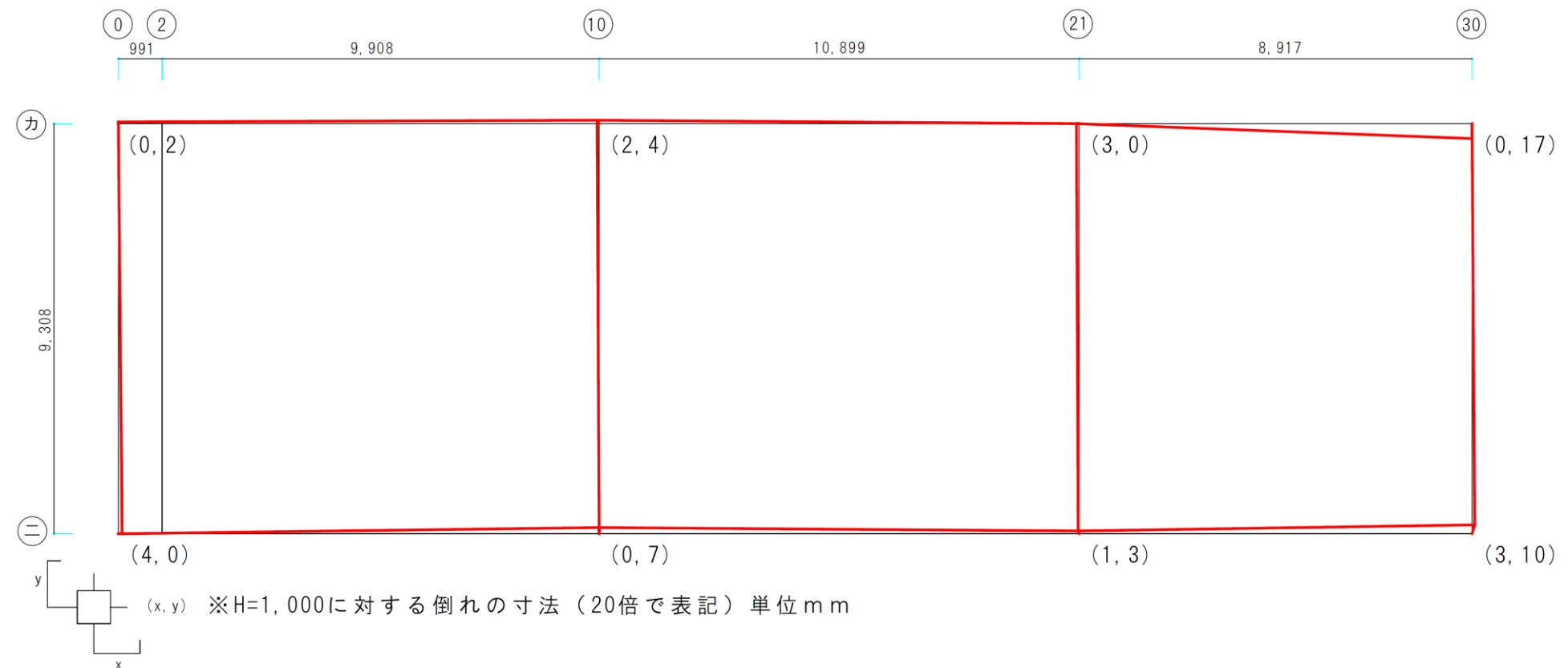


8 板の間下部 南側方向（石垣側）への床傾斜



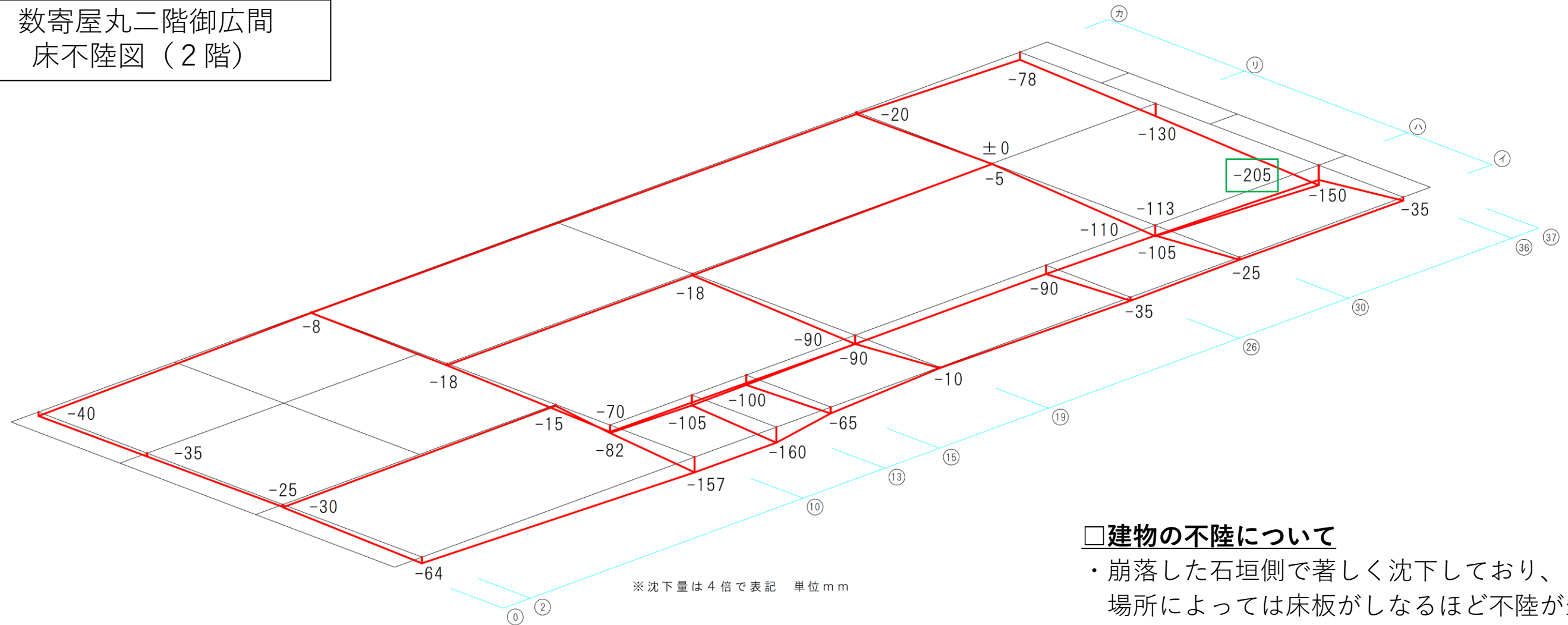
被災状況

- ・各所に壁の亀裂が見られ、土壁、漆喰の剥離落下がある。
- ・全体的に北側に傾斜している傾向が見られる。また、廊下東側の柱が南側に抜け出ており、大きく変形している。
- ・廊下の不陸が大きく、石垣が崩落している範囲は石垣側へ、崩落していない部分は内側へ沈下している。
- ・床下地盤状況について、1階から見える範囲では、石垣の沈下に伴い、礎石と柱束の浮き、抜けが確認できる。

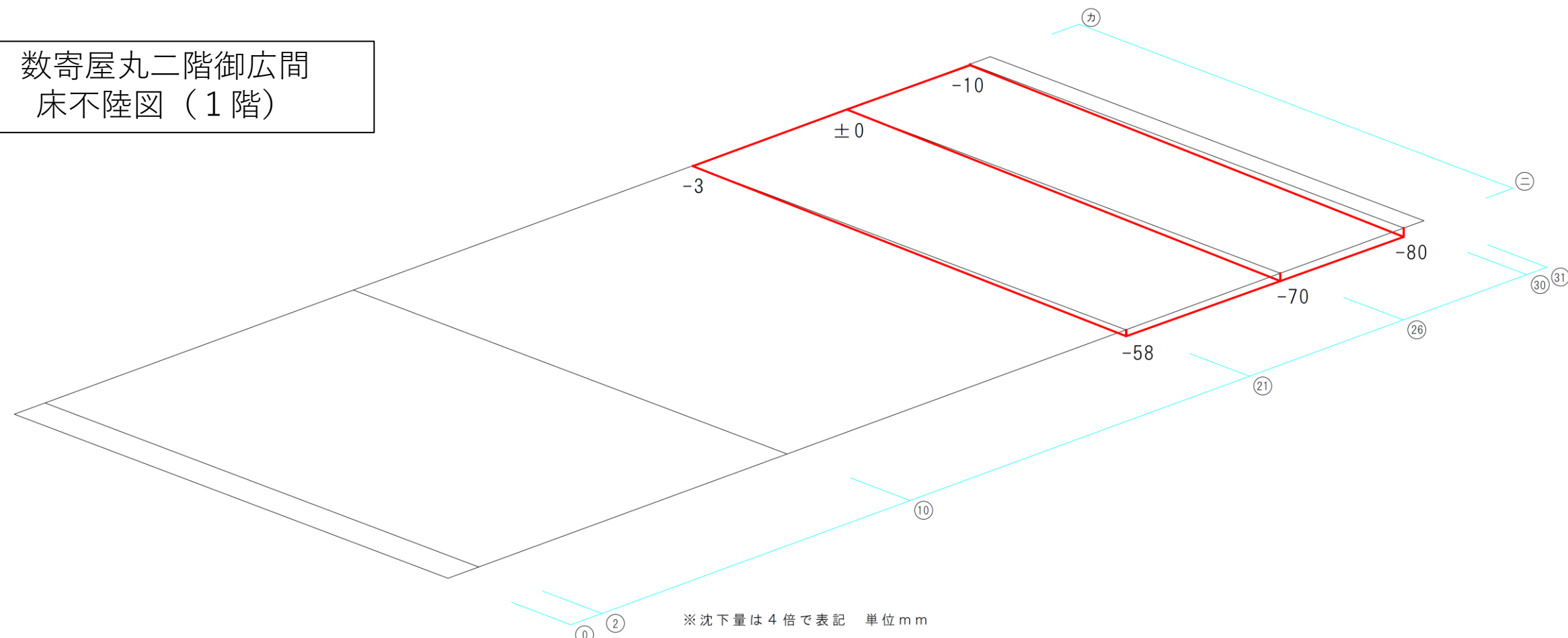
数寄屋丸二階御広間
柱傾斜図（2階）数寄屋丸二階御広間
柱傾斜図（1階）

□建物の変形について

- ・柱が北側方向（石垣と反対側）に傾斜する傾向にあり、南東側の柱では柱足元が南側へ抜け出ている箇所が複数箇所見受けられる。

数寄屋丸二階御広間
床不陸図（2 階）**□建物の不陸について**

- ・崩落した石垣側で著しく沈下しており、場所によっては床板がしなるほど不陸が生じている。

数寄屋丸二階御広間
床不陸図（1 階）



1 南大手門北面 桁行方向の全体的な歪み



2 南西側入口 石垣崩落に伴う土台沈み、壁破損



3 内部西側 床傾斜、壁剥がれ、建具歪み



4 内部西側 床傾斜



5 内部中央付近 北方向への柱・床傾斜



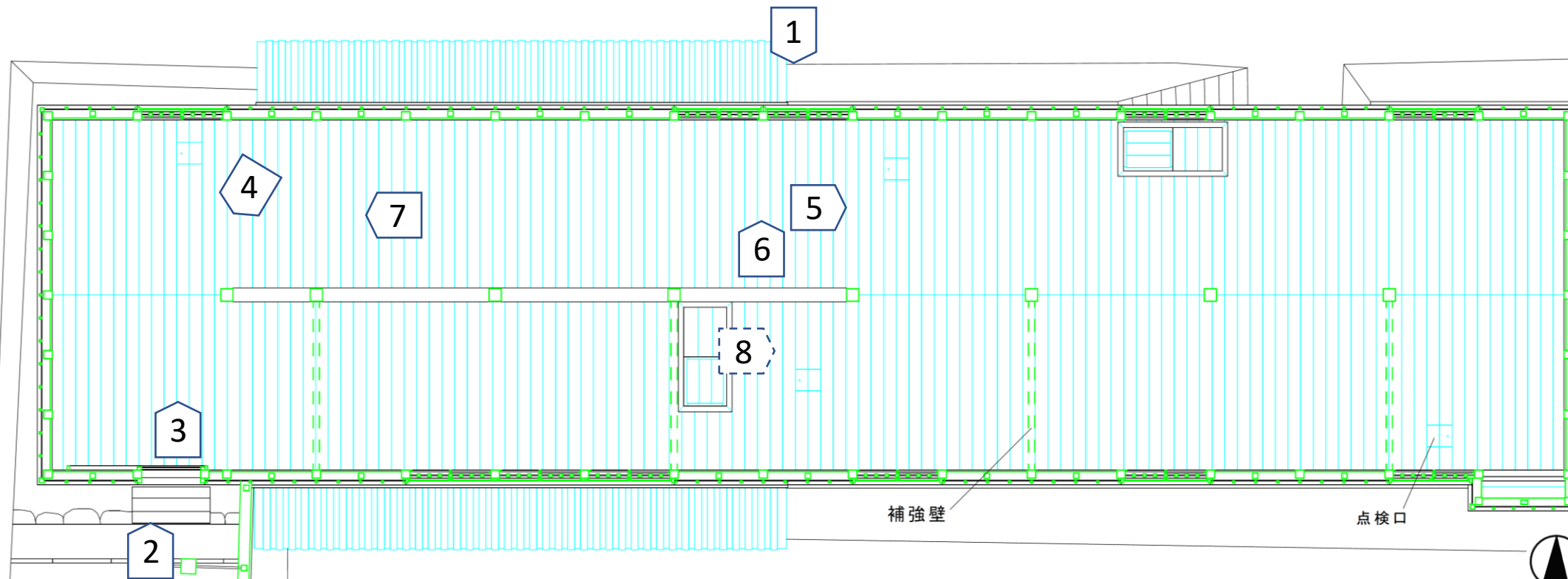
6 内部中央付近 壁剥がれ、建具歪み



7 内部西寄り 壁ひび、柱・床傾斜



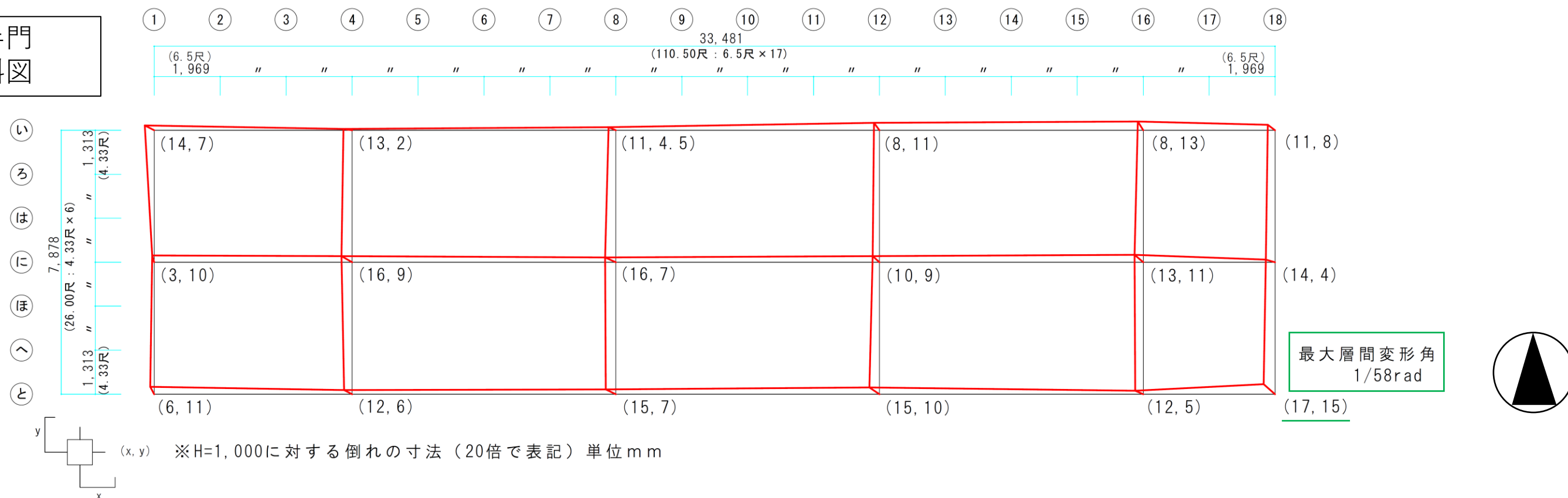
8 門際階段から床下を見る 地盤の沈下、束浮き



被災状況

- ・各所に壁の亀裂が見られ、土壁の剥離落下がある。
- ・全体的に北西側に傾きが見られる。
- ・内部は目視でも不陸が顕著で、真っすぐ歩くことが困難なほどである。
- ・南大手門の床下地盤状況について、東面、北面、西面の随所で石垣が崩落しており、礎石と柱束の浮き、抜けが確認できる。

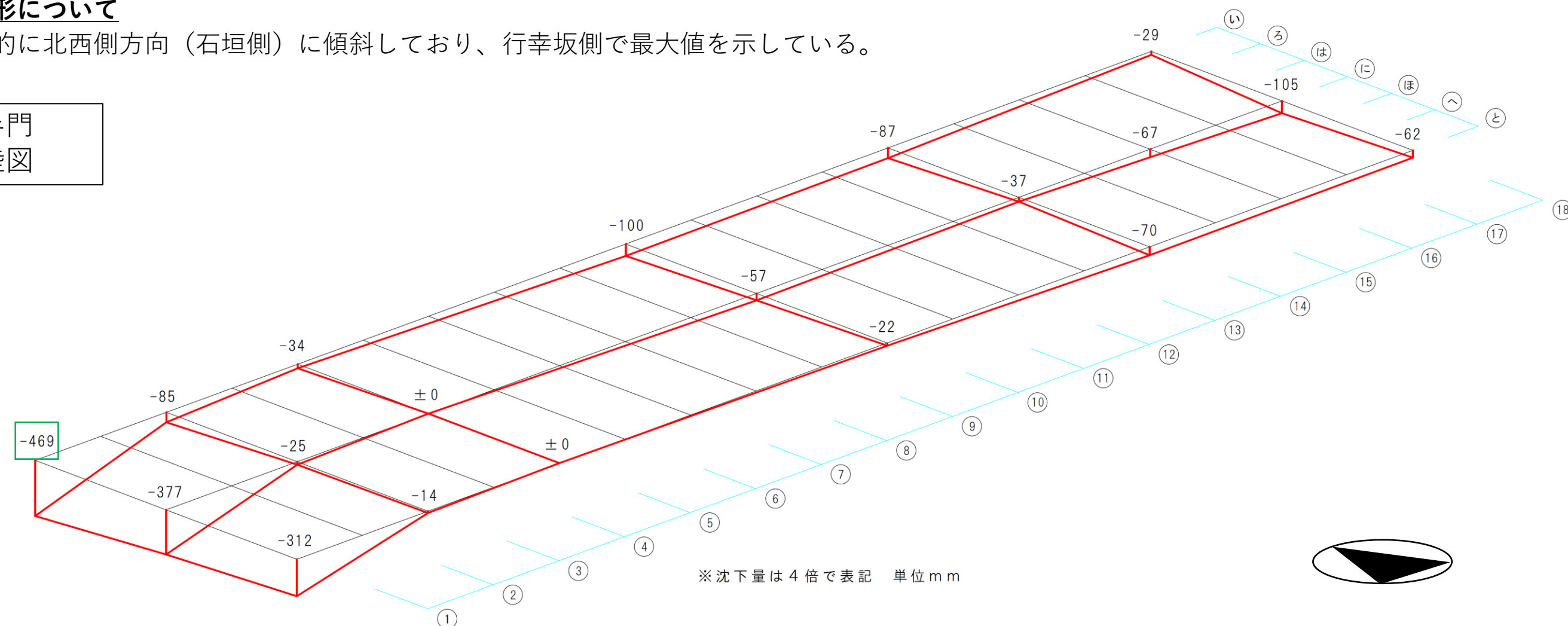
南大手門
柱傾斜図



□建物の変形について

- ・柱が全体的に北西側方向（石垣側）に傾斜しており、行幸坂側で最大値を示している。

南大手門
床不陸図



□建物の不陸について

崩落した石垣側（西側）で著しく沈下しており、場所によっては床板がしなる、もしくは剥がれるほど不陸が生じている。